

令和6年度 共創型研究推進事業 採択結果

研究代表者	研究題目	支援額
青木 憲治 (グローバル共創科学部)	「フラワーポットプロジェクト」実証試験における綿花/ポリプロピレン複合材料の経時変化に関する検証	¥400,000
板倉 美奈子 (グローバル共創科学部)	自然資源の保全と持続可能な活用をめざす試み —価値の再発見と保全・活用のための理論の構築に向けた予備的研究	¥500,000
金 キョンミン (グローバル共創科学部)	菌類の電気化学的機能の探索とバイオ燃料電池への応用	¥300,000
小池 亨 (グローバル共創科学部)	ナマコ細胞の長期継代培養系の確立とそれを用いた「培養シーフード」の開発とその普及に向けた技術的・社会的課題の調査	¥500,000
朱 暉 (グローバル共創科学部)	2025年問題を見据えた高齢者支援策の模索 —信託制度枠組みの包括的利活用の可能性について	¥200,000
白井 千晶 (人文社会科学部)	災害時の性暴力を防止するための研究	¥750,000
崔 宰熏 (グローバル共創科学部)	担子菌キノコ類による一酸化二窒素発生メカニズムの解明と排出抑制技術の検討	¥200,000
藤井 真生 (人文社会科学部)	歴史文化資源を活用した地域ブランドの創出—登呂遺跡に由来する酵母と赤米を利用した日本酒造り—	¥700,000
本橋 令子 (農学部)	海水温上昇によるアマモの生育への影響を明らかにするために、アマモの温度ストレス応答調査	¥1,000,000
山岡 拓也 (人文社会科学部)	後期旧石器時代及び縄文時代のイモ利用に関する基礎的研究	¥350,000
山本 隆太 (地域創造教育センター)	伊豆半島における地域福祉と防災活動に関する共創型研究	¥100,000
(支援合計額)		¥5,000,000

※50音順

選考結果とその経緯

(選考結果)

年度	申請件数	採択件数	総支援額
令和5年	7	7	300万円
令和6年	11	11	500万円

(選考の経緯)

グローバル共創科学部内に選考委員会（教員5名で構成）を設置し、書類審査及び合議審査により採択課題及び支援額を決定した。

(書類審査)

提出された申請書を(1)目的・概要(10点満点)、(2)研究計画(10点満点)、(3)独創性・新規性(10点満点)、(4)共創的に行う意義(30点満点)、(5)その他(10点満点：特筆すべき研究業績、競争的外部資金獲得状況、学内にて支援されている研究資金、特記事項を総合的に判断)を基準に採点した(70点満点)。

(合議審査)

書類審査の結果を踏まえ、書類審査の順位に従って、研究の方向性・重要性とともに、共創的研究としての重要性・将来性に主眼を置き審査し、採否及び支援額を決定した。

(選考において重要視した点)

書類選考において「共創的に行う意義」を30点満点にしているように、提案された研究課題が如何に共創的かを重要視した。募集要項において共創的研究を、「個々のディシプリンベースの専門知識・技術をもとに、グローバル化した社会の新たな諸課題の発見や解決を目指した研究、特に地球の持続可能性など地球的・人類的課題に関する研究や、文理融合を含め複数の大きく異なる専門領域にまたがる学際的研究等を意味する。」と定義しているが、特に二重下線部分を最重要視した。

さらに、合議審査で行われたように、「研究の方向性・重要性とともに、共創的研究としての重要性・将来性」も重要視した。

今回の申請では、申請書における「支援金使用内訳」における説明不足や過剰な支援要求が見られた。また、研究課題が「具体的に何を行うのか？」を記載していないケースがあった。特に「本申請が共創的研究かどうか？」と疑問が残る申請も多く、次年度以降はこの点をさらに重視して採否を決定する予定である。また、本支援事業の性質（共創的研究のスタートアップ支援）を鑑みて、2年連続で支援した申請課題には、他の競争的外部資金を獲得して頂くべく、3年目は支援しないことを決定した。